

生い立ち

わたしは子どものころ、木がたくさんある場所でそだちました。まわりは自然がいっぱいでした。その環境で、わたしは自然がすきになりました。はっぱの音、やさしい風、そしてまわりのしずかさがすきでした。子どものころの生活はかんたんで、楽しい毎日でした。ほとんどの日、友だちやいとこと外であそびました。マンゴーの木にのぼったり、ころんだり、けがをした時もありましたが、すべて楽しいぼうけんでした。

ピントン・グバット小学校に入った時、生活はもっとにぎやかになりました。学校は明るくて、友だちがたくさんできました。わたしはいちばんの生とではありませんでしたし、賞ももらいませんでした。でも、本当にしあわせでした。休み時間のあそびや笑い声、毎日の思い出は、成せきより大事でした。

小学校のあと、コングレッショナル国立高校でベンきょうしました。家から遠かったですが、ここでやる気が出ました。もっとがんばって、いくつかの賞をもらいました。そして、新しい友だちもできました。高校は、たくさんの人生の教くンを教えてくれました。両親はきびしくて、あまり外に出ることはできませんでしたが、わたしは成長できました。

シニアハイスクールがはじまった時、ホーリー・ディーマーに転校しました。すべてが新しく、少し不安でしたが、わくわくもしました。学校のイベントに参加して、キャンパスリーダーになりました。そして、ミューズにも選ばれました。シニアハイスクールは短かったですが、自信をつけてくれる経験がたくさんありました。

そのあと、大学はキャビテ州立大学シランキャンパスに入りました。大学生の生活はちがっていて、もっとむずかしかったです。新しい科目、むずかしい授業、そして大変な課題がありました。クラスメートとあまり話さなかったので、しずかに勉強して、家に帰りました。でも、毎学期ちゃんとがんばりました。大学はいちばんしあわせな時間ではありませんでしたが、がまんする力を学びました。そして、人生のそれぞれの時代に大事な教くんがあると分かりました。

卒業のあと、はじめての仕事を始めました。その時、海外ではたらきたいと思いました。日本は、きそく、平和、そして整とんしているところがすきで、ゆめの国になりました。日本に友だちや家族もいたので、もっとがんばりたいと思いました。それで、日本語学校に入って、ゆめのために勉強しました。

そして、その時間に、ケンジミンに会いました。かれは、日本に行くというわたしのゆめに向かってがんばっているこの新しい人生に、よろこびをくれた人です。